

井出照子展
Teruko Ide

井出照子展
1997年12月9日～12月14日 京都・ギャラリーマロニエ
TEL.075-221-0117



「月の出はいつ 1」
高50.0 径58.0×39.0cm
1997年



「月の出はいつ 2」
高51.0 径62.0×25.0cm
1997年



「月の船」
高21.0 径75.0×23.0cm
1997年

素焼したときの作品は、また少し土味を残しているようで、その温かみが好きだと作者は語る。
井出照子氏の作品は、本焼を終ってもなお、どこか、土、本来のやわらかさを持ち続けているように見える。それは、素材である土を手中に引き寄せて、思うがままに扱うというよりは、素材の持ち味を残しながら、表現の幅を見つけておこうとしているからだろう。赤土に白化粧を施して成彩された作品には、



1970年、京都市立芸術大学工芸科を卒業する。72年、マレーシア・MARA工科大学で、講師として陶芸指導にあたる。74年、帰国、高槻市に開業。新田陶芸展、日本陶芸展入選。

様々な技法の装飾がバズルのようにはめ込まれ、まるで布が、幾重にも掛けられているようにも見える。
粘土のように、「果てないやわらかさを見る人に身えない」と、井手氏は夢みていた。しかし作者の思いとは裏腹に、こうした表現を作品に抽出することの難しさを指摘されることもあつて、それは、今後の課題として取り組みたいという。
今回出品された作品は「三点、月の船」「風紋」など自然を捉えた主題が多い。昨年訪れたモロッコでの、乾いた大地の印象がもしれないと尋ねると、特別意識はしていないが、雄大な自然の営みには、いつも心が動かされているという。土の大きさに惚れる、作者らしい思いを感じた展覧だった。
(取材・文：大塚のり子)

炎



昭和陶工依①
山田常山

Ceramic Art And Craftwork

芸術



沖繩県
壺屋焼
Tsukagawa Kyo



53
1998

和太守卑良展
鈴木五郎展
井出照子展
シエフ・シャピロ展
出石磁器トリエンナーレ展
酒修行展

酒器のすゝめ

アマチエリ作陶帖

● 井出照子展 ● 和太守卑良展 ● 鈴木五郎展 ● シエフ・シャピロ展 ● 出石磁器トリエンナーレ展 ● 酒修行展